

勾当台公園再整備基本構想について

令和4年8月

仙台市建設局百年の杜推進部公園管理課

第93回杜の都の環境をつくる審議会

1. 勾当台公園再整備事業の目的



勾当台公園の整備後30年以上が経過し、施設に老朽化が見られる他、市役所本庁舎の建て替えに伴う新本庁舎敷地内広場及び勾当台公園市民広場の一体的活用に向けた連携等を背景とし、本市中心部の更なる賑わいづくりや公園の価値向上等を目的に、勾当台公園全体の再整備を実施する。

R4.6
基本構想策定

2. 勾当台公園再整備事業のスケジュール

年度		R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)
勾当台公園再整備		基本構想		基本計画	設計	にぎわいの広場 いこいの広場 歴史の広場			再整備			
		勾当台公園再整備検討懇話会										
本庁舎建替	設計	計画	設計									
	工事				改修工事	先行解体	一期工事		外構	★ 現庁舎解体	二期	外構
									★ にぎわいの広場(市民広場)供用開始			
									★ 新本庁舎・低層部供用開始			

3. 勾当台公園再整備検討懇話会の設置

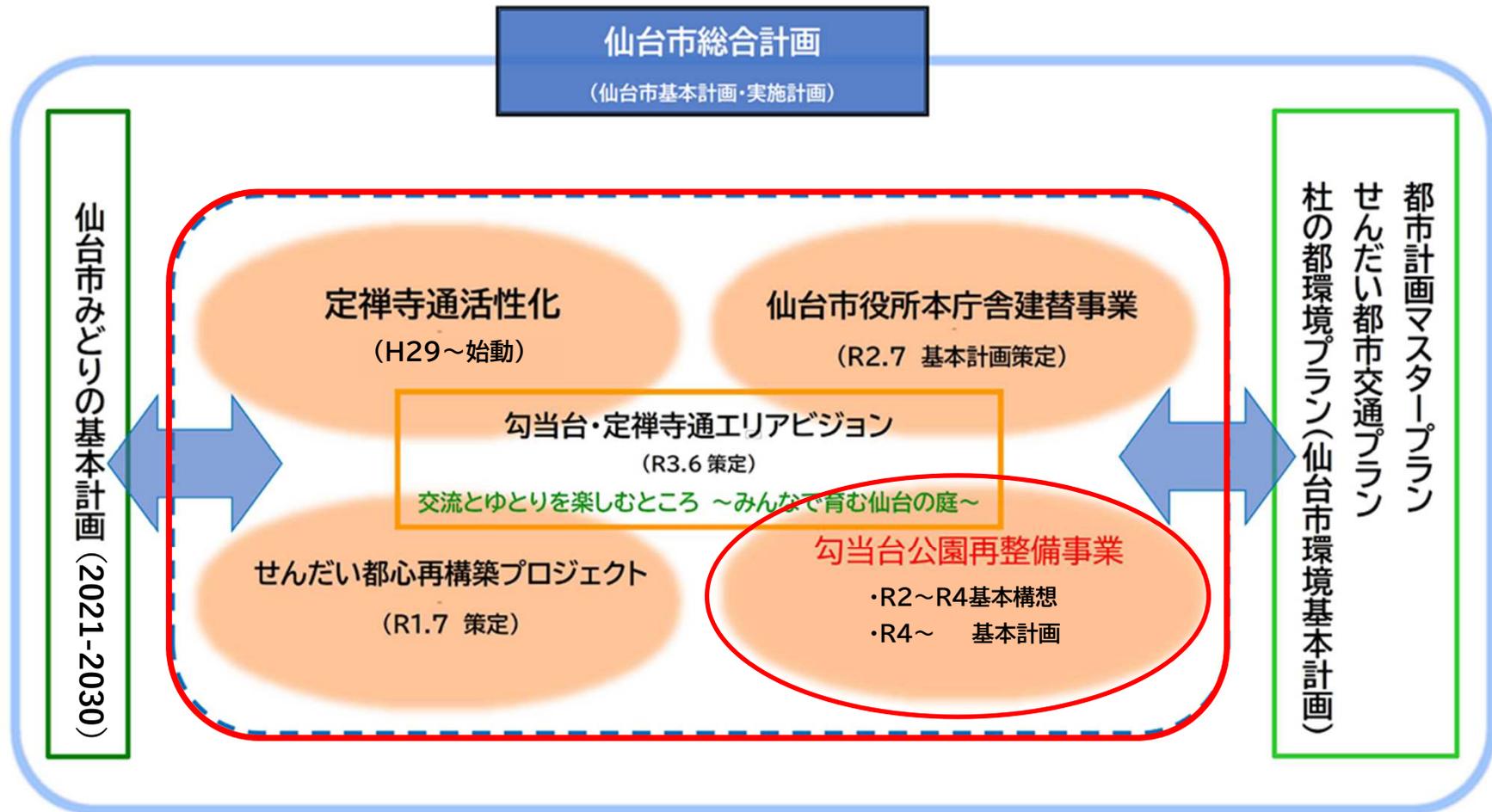
勾当台公園の再整備の方針について、公園の利活用や地元まちづくりにおける有識者から専門的な意見を勾当台公園再整備に反映させるために設置。

【勾当台公園再整備検討懇話会委員名簿】

	氏名	所属・役員等
座長	もとえ まさしげ 本江 正茂	東北大学大学院 工学研究科・工学部准教授 東北大学災害科学国際研究所 准教授 宮城大学 事業構想学群 教授
座長代理	わたなべ かつら 渡部 桂	東北芸術工科大学 デザイン工学部 建築・環境デザイン学科教授
委員	いわま ゆき 岩間 友希	特定非営利活動法人 まちづくりスポット仙台ディレクター
委員	うばうら みちお 姥浦 道生	東北大学大学院工学研究科 教授
委員	しょうじ まき 庄子 真岐	石巻専修大学経営学部 教授
委員	たかやま ひでき 高山 秀樹	仙台商工会議所 理事・事務局長
委員	ふくおか たかのり 福岡 孝則	東京農業大学 地域環境科学部造園科学科 准教授

※敬称略・委員50音順

4. 勾当台公園再整備事業と関連施策の位置づけ



5. 勾当台公園の現況



名称	勾当台公園
所在地	仙台市青葉区本町三丁目9-2外
公園種別	近隣公園
規模	26,887m ²
設置	昭和31年度
改修	平成元年度

■エリア別面積

【にぎわい広場(市民広場)】 約8,000m²

【いこいの広場】 約15,000m²

【歴史の広場】 約4,500m²



仙台青葉まつり



定禅寺ストリートジャズ
フェスティバル



SENDAI光のページェント

6. 勾当台公園再整備に向けた視点

①再整備に向けて配慮すべき事項

勾当台公園の特性

- ・3つの広場の機能連携と立地特性に応じた利活用
- ・公園整備の歴史・文化の保存と継承
- ・市民が集うイベント広場としての利活用の維持・発展
- ・徒歩で回遊できるアクセス性、交通結節点としての機能の活用
- ・防災機能の確保

公園施設の機能充実・更新

- ・まとまりのある広場空間の確保と適切な通行空間の連携配置
- ・樹木の生育環境の改善、老朽施設の修繕・リニューアル
- ・歩行空間の快適性・安全性・バリアフリーの確保
- ・グリーンインフラとしての機能形成

公園運営

- ・情報発信機能の向上
- ・官民連携(PPP)等の導入
- ・多様な主体が協働するパークマネジメントの導入
- ・周辺施設との一体的なマネジメントに関する検討
- ・ブランディング



市民が集うイベント広場としての利活用の維持・発展



まとまりのある広場空間の確保と適切な通行空間の連携配置

②想定される利用シーン

- 市民・ファミリー
- 仙台を訪れる人々
(街歩き・観光・買い物)



公園でピクニック



ベンチで読書

街歩き・ウェルネス・観光で立寄るゆとりの空間

- 仙台市の都心部で働く人



アイデア会議



公園で仕事

働く人が行き交う都心のオープンスペース

- 多様な活動主体と参加する市民



市民による花壇の手入れ



ライトアップ

多彩なイベントの場・にぎわいの場

- その他災害時における一時避難及びその対策に従事する人



災害時の一時避難



災害対策の拠点

災害対策の拠点

7. 勾当台公園再整備に向けた基本理念（コンセプト）

基本理念（コンセプト）

“Common Garden”

～「ひと」と「まち」をつなぐゆとりとにぎわいの拠点～

“Common Space” × “Garden”

豊かなみどりと人の活動・にぎわいとが調和した「杜の都 仙台」の暮らしの豊かさを実感できる、また新しいこと（市民活動等）へのチャレンジや、思い思いの利用ができる「みんなが使い・育てる私たちが誇りに思う庭」として、仙台のシンボルとなる公園を目指します。

- 公園で展開される豊かさや賑わいが、勾当台・定禅寺通エリアへと人を呼び込む、エリアの吸引力の核となります
- そして、公園からの人流が生まれ、都心部のみどりの回廊を通じて周辺の定禅寺通や一番町といった都心へと環流していきます
- 都心部のみどり豊かで貴重なオープンスペースがみんなの心にゆとりを生み出します。
- 公園内の「みんな」の活動が、まちの魅力や当該エリアの価値を向上させていきます

基本的な方向性

1. 仙台ブランドの発信拠点【世界とつながる】

仙台・青葉まつり、仙台七夕まつり、定禅寺ストリートジャズフェスティバル、SENDAI光のページェントなどの仙台の魅力を発信する大規模なイベントのメイン会場としての使用やブランド力を持つ公園デザイン等を通じて“The Greenest City SENDAI”の発信拠点とします。

2. 多彩な市民活動による交流と創造の場【人がつながる】

新庁舎低層部や勾当台通・定禅寺通、西公園・錦町公園の広場と連携・分担しながら、市民活動のチャレンジの場となるとともに、市民団体や市民同士の交流が深まり、まちづくりを創造する場とします。

3. 都心のサードプレイス【心がつながる】

コミュニティライフを実現するオープンスペースとして、昼間だけでなく、夜間は照明など光の演出により、誰もが気軽に、安心して訪れる居心地の良い都心のオアシス空間をつくり、市民生活にいきいゆとりを提供します。

4. みどりの回遊拠点【街がつながる】

仙台のグリーンインフラである「都心部のみどりの回廊」の拠点として、にぎわい・レクリエーション・緑陰の提供等の多様な緑の機能を活用しながら、まちの回遊性を高め、にぎわいと交流の拠点とします。

5. エリアマネジメントの展開【時がつながる】

新本庁舎低層部や定禅寺通活性化の取組みと連携し、勾当台・定禅寺通地区におけるエリアマネジメントの展開等により、地区のブランディングを強化し、良好な環境や地域の価値を向上させ、未来へと継承します。



8. 勾当台公園再整備の方向性

1. 仙台ブランドの発信拠点

- ◇新本庁舎低層部等と連携した大規模イベント空間の形成
- ◇杜の都のブランドに寄与する統一されたデザインの導入
- ◇杜の都らしさの豊かな緑(保存樹林、河岸段丘)と文化の継承

2. 多彩な市民活動による交流と創造の場

- ◇新本庁舎低層部や周辺公園広場との連携と分担
- ◇多様な市民活動を展開できる広場の再配置・機能拡充
- ◇広場と周辺民間ビルとが調和した空間の形成

3. 都心のサードプレイス

- ◇親しみやすく開放感のあるデザインの導入
- ◇くつろぎや賑わいを創出する都心部の芝生広場形成
- ◇憩いの空間を創出する植栽・照明デザインの導入

4. みどりの回遊拠点

- ◇回遊性を高めるエントランス機能の確保
- ◇歩道と連続したみどりの空間の形成
- ◇滞留性を高める施設の導入

5. エリアマネジメントの展開

- ◇周辺施設と連携したエリアマネジメントの検討
- ◇P-PFIを活用した民間企業との連携
- ◇公園活動団体設立の検討

勾当台公園再整備基本構想図



公園全体に共通する再整備の方向性

(1) グリーンインフラのモデル公園

都心部での暑熱緩和や雨水浸透機能、生物多様性の保全等に寄与するモデル公園とする

(2) ユニバーサルデザインの導入

年齢や国籍、障害の有無などにかかわらず、すべての人が集い、憩い、楽しむ公園とする。

(3) 都心の防災機能強化

都心部での避難場所や新本庁舎と連携した被災者支援の場とする。

【凡例】

- ⇄ (緑色) : 都心部のみどりの回廊 (候補路線含む) 勾当台通・定禅寺通の都心部の緑の回廊による人流・景観軸
- ⇄ (赤色) : 広場とまちの軸 一番町商店街・つなぎ横丁から新本庁舎へつながる空間軸
- ⇄ (茶色) : 段丘のみどり軸 都心に残された河岸段丘の崖面による景観軸
- ✦ (紫色) : にぎわいゾーン : (新本庁舎・表小路・にぎわい広場~いこいの広場下段部)
- ✦ (オレンジ) : いこいのゾーン : (新本庁舎・歴史の広場・宮城県庁~いこいの広場上段部)
- (緑色) : 勾当台公園区域